

突然ですが、手を見て下さい。何色をしていますか？ 心の中で呟いてみて下さい。

色々な答えがあると思いますが、「肌色」と自信を持って呟いたあなたは、残念ながら不正解です。何故かという、答えはありません。きっと、あなたは自分自身の手を見たのだと思いますが、当然のことながら、答えは人によって違うからです。これは、今の僕がそう思っているだけで、過去の自分は皆さんと同じ答えでした。

ある日のこと、色鉛筆の蓋を開くと十二色の色鉛筆が並んでいました。それは、色彩鮮やかないつも見慣れている色でした。

しかし、突然疑問が湧いたのです。「なぜ、『うすだいたい』なのだろう」幼稚園の頃から“肌色”と呼ばれてきた色が中学生になって“薄橙”という名が付いていたのです。

直ぐさま調べてみると、「差別」の文字。正直、色と差別は無縁だと思っていましたが、よく読んでいくと、その答えは、最近よくニュースで目にする「人種差別」にありました。

つい最近、テレビを見ていると「アメリカで黒人男性が警官により誤射殺された」という報道がありました。これについては、昨年にも全米で人種差別への抗議デモが広がるきっかけとなった、白人警官が黒人男性を暴行死させた事件も起きており、有色人種は白人に比べ劣っているとする「白人至上主義」の考え方が問題視されています。さらに、人種差別に抗議する「BLM運動」のデモが全米のみならず世界各地に広がっています。そして、BLMを和訳では「黒人の命は大切だ」と表されます。つまり、このことが肌色から薄橙に名称が変更された大きな理由なのです。

しかし、このままでは世界はどうなってしまうのでしょうか。ここで、深く関係しているのが『ステレオタイプ』です。例を挙げると、科学的な根拠では無く「血液型によって性格を決め付けてしまう」などという、特定の人種や地域、性別に浸透しているイメージや固定観念のことを指します。そして、これは偏見や差別とよく混同されますが、それぞれに違いがあります。先程の黒人差別に当てはめると“黒人は野蛮”というイメージはステレオタイプ、“近づくのが怖い”という感情は偏見、それが行動に移り、差別となります。

つまり差別は、人が生み出した勝手なイメージ（ステレオタイプ）により差別へと発展し、全ての始まりは、固定観念にあるのです。

では、「偏見や差別を表に出さず、ステレオタイプを自分の中だけで持つことは良いのか」と感じた人もいると思いますが、決してそうではありません。スタンフォード大学で行われた実験では、白人学生よりも成績が低かった黒人学生に対して「黒人は知能レベルが低い」というステレオタイプを取り払った状態で試験を行うと、白人学生と同等の成績を修めました。つまり、ステレオタイプによる影響で知能が低下してしまったということです。これを『ステレオタイプ脅威』と言います。

大切なことは、このステレオタイプが必ずしも当てはまるという訳では無く、目の前の人を決め付けてしまえば、その人自身の本質を見誤る可能性があるということです。ステレオタイプ脅威のようなことがこのまま続いていくと、世界はどこへ向かっていくのでしょうか。人種以外にも民族や文化、障がい者、LGBTQなどの性的少数者への差別…小さな固定観念から生み出された悲惨な差別は、もう過去です。取り返せない過去から学ぶ、未来を変える為にすべきこと。それは同じ人間同士、多様性を認め合い、助け合える。そんな世の中にしていかなければなりません!!この地球上に存在する全人類の肌が“肌色”ではありません。次はあなたが考える番です。

では、最初にあった質問に、あなたはどのように答えますか？…